

昭和47(1972)年7月9日～13日 昭和47年7月豪雨

概況

1972年7月3日から13日まで全国的に降った大雨は昭和47年7月豪雨と命名された。愛知県では9日から雨が降り続き、11日までの雨量は多い所で150mmを超えた。12日夜遅くからは、本州上に停滞する梅雨前線上を東進する低気圧の影響で、雨は激しさを増した。特に西三河地方を中心に局地的な集中豪雨となり、豊田市(県雨量観測所)では、13日の00時～01時の1時間に84mm、12日22時から13日02時までの4時間に214mmの非常に激しい雨となった。9日から13日までの総雨量は多い所で450mmに達した。

矢作川沿いの三河地方では、中小河川の決壊や先行降雨で地盤が緩んでいたこともあり山・がけ崩れが相次ぎ、県内では小原村の31名をはじめ、藤岡村、豊田市および足助町など死者63名、行方不明者4名の犠牲者を出す大災害となった。

降水量観測記録(昭和47年7月9日～13日、日界は当日09時～翌日09時)(単位:mm)

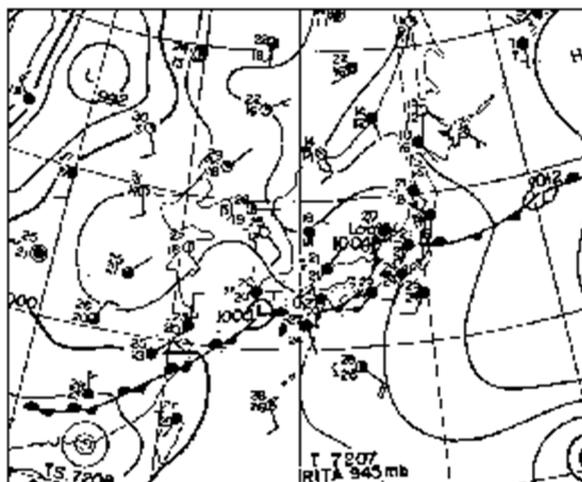
観測所	9日	10日	11日	12日	13日	合計
猿投(県)	29	99	10	309	11	458
小原(気)	38	77	18	284	11	428
大草(建)	39	75	19	281	11	425
安城(気)	12	132	12	183	11	350
豊田(県)		94	13	264		

(雨量観測所:(気)は気象台、(県)は愛知県、(建)は旧建設省の管理)

集中豪雨となった西三河地方での雨量を上記表に示した。9日から11日までの3日間で多い所で150mmを越える先行降雨があり、12日には多い所で300mmを超える豪雨となった。13日までの5日間の総雨量は多い所で450mmに達した。

愛知県被害状況(愛知県:災害の記録、被害状況総括表(47. 7 豪雨・台風第6号から))

人的被害	死者(人)	64 7月豪雨:63	住宅被害	全壊(棟)	271
	行方不明(人)	4		半壊(棟)	287
	負傷者(人)	112		一部破損(棟)	794
その他	河川(箇所)	751		床上浸水(棟)	2,075
	砂防(箇所)	258		床下浸水(棟)	12,077
	道路(箇所)	1,885		非住家(棟)	2,343
	橋りょう(箇所)	57			
	田畑流失埋没(ha)	435			



地上天気図(昭和47年7月12日21時)

12日から13日にかけて本州上に停滞した梅雨前線上を、低気圧が12日09時に九州西、夜21時には能登半島の西へ進み、13日09時には秋田沖へ進んだ。西三河地方での集中豪雨は、低気圧が能登半島付近にあった12日夜遅くから13日午前3時前頃に発生した。